

慈光

第75号
2021.1.1発行

宝蔵院
川口市安行慈林954
TEL048(281)3321
FAX048(281)3305



仏教の祈り

―見えないウイルスとの闘い―

令和2年は、多くの人が新型コロナウイルスに振り回された年だったのではないだろうか。例えば、緊急事態宣言が発令され、外出の自粛、テレワーク、学校のオンライン授業等々…挙げたらキリがありません。今まで当たり前に行っていたことができないというストレスを実感した方も多くいるのではないだろうか。

しかし、今回のような感染症との闘いは今回がはじめてではありません。それは、天然痘、ペスト、コレラ、スペイン風邪、SARS等々…感染症は幾度となく、人類に猛威を振るってきた歴史があるからです。

そこで今回は、日本人がどのように感染症と向き合ってきたのか、さらには日本仏教界がどのように感染症と向き合ってきたのかを紹介いたします。

まず初めに、歴史資料に残って

いる限り日本での感染症（これは日本風に「疫病」と記します）の初出は崇神天皇の時代だと考えられています。それは、『日本書紀』の中に国内に疫病多くして、民死亡れる者有りて、且大半ぎなむとすという文があり、疫病により人口の半分の方が亡くなったことが分かります。

しかし、崇神天皇が生きたのは古墳時代であり、まだ日本に仏教が入ってくる以前のことです。そのため、まだまだ当時の人々は疫病に感染したら最後、希望もなく、坐して死を待つ他なかったのです。

そして時代は移り飛鳥時代になると、仏教が伝来し、徐々に国家、民衆の中に仏教を抛り所とする希運が高まります。そのよ

うな希運は聖徳太子（厩戸皇子）が制定した「十七箇誓法」にも「篤く三宝を敬い（三宝とは仏の教え・教えを守る人々）…」という文章が出てくることから分かれると思います。

そして時代は移り奈良時代になると、「天然痘」の大流行が起こり、日本仏教界と疫病との歴史が始まります。

奈良時代は主に、「大般若会」という法要に依って、護国成就、鎮護国家、万民豊樂、そして疫病除滅などを祈っていました。この「大般若会」では「大般若経」というお経を用いるのですが、このお経は六〇〇巻という大変長いお経です。ちなみに、皆さんにも馴染みのある「般若心経」も実はこの中に収められています。

また、日本において疫病除滅のために「大般若会」が開催されたのは七七〇年（宝亀元年）が最初と言われています。

なお、「大般若会」は現在でも行われており、六〇〇巻のお経をお唱えするのは難儀なため、「転読」といつて経本をパラパラとめくり、読んだことにする形で行われています。また、このパラパラとめくる際に生じる風を「般若の梵風」といい、靈験あらたかなものとされています。



大般若会の様子 提供・戸田市平等寺

一方、同時代には、僧侶が唱えるお経の力だけではなく、一般人々の力も結集させて疫病を防ぐと考えた方がおられます。それは聖武天皇であり、篤く仏教を信仰していたことで知られています。それは、疫病や災害を抑え込むために各地に国分寺を創らせ、さらには当時の都である奈良に巨大な仏像を造立させました。皆さまもご承知の通り、この仏像が「東大寺の大仏（盧舎那仏）」であり、疫病を鎮める祈りの中心地として造立されました。また、この大仏を造るために、優秀な僧侶を集め、經典の研究をさせたという逸話も残っています。

（6ページに続く）

初薬師大護摩修行(ご縁日)

令和3年1月8日 午後12時半から法話 13時より護摩修行

慈林薬師大護摩

慈林薬師では毎月8日ご信徒の諸願成就を祈禱する御護摩を修法しています。御護摩の靈験利益は、数限りなく古来多くの方から信仰をいただいております。

御護摩とは

薬師如来を御本尊とし、その前に壇を設け、さまざまな供物を捧げ、護摩木という特別なまきを焚いて御本尊に祈る真言宗の秘法です。御護摩の火は智慧を象徴し、まきは煩惱を表わしています。御護摩の祈禱を通じてまきという煩惱を薬師如来の智慧の炎で焼きつくし、ご信徒の願いが清浄な願いとして高まり成就することを祈ります。

◆ お護摩料 ◆

特別大護摩料	30,000円以上
大護摩料	10,000円
護摩料	5,000円
護摩料	3,000円

◆ 護摩願意一覧 ◆

家内安全	工場安全
商売繁盛	作業安全
身体安全	工事安全
厄災除	旅行安全
心願成就	開運満足
安産満足	入学成就
身上安全	合格成就
火難消除	学業成就
災難消除	就職成就
当病平癒	交通安全
無病息災	必勝祈願
手術成就	方災消除
負傷平癒	六三除
社運隆昌	虫封
事業繁栄	御札

（1ページより続く）
以上大まかに、仏教界の主な疫病除滅に対する活動である「大般若会」と「大仏の造立」をご紹介いたしました。もちろんそれ以外にも、お護摩祈禱や疫病封じ（疫病退散）のお守りの頒布など、さまざまな活動を行っております。
それは今日でも同様に、コロナウイルスが流行り始めた頃から、全国各地の神社仏閣で早期終息



慈林薬師 疫病除滅祈願お守り

を願い、神仏への祈りが捧げられてきました。当寺でもお護摩の際には終息を願い、そしてお守りの頒布も併せて続けています。

多くの人が各々の立場でコロナの終息に向けて頑張れるように、仏教界は今後も祈り続けていきます。
来年が皆さまにとって良い年になるよう祈念して…。

合掌

(副住職 憲寿記)

慈林薬師体験夏祭り 中止のご報告

一昨年から始めた体験夏祭りですが、今年はコロナウイルス感染拡大の影響により、やむなく中止とさせていただきます。

徐々に盛り上がりを見せていた体験夏祭りですが、やはり各体験ともに密を避けられず、さらには流しそうめんなどの飲食を伴うものもあり、参加いただく方々の安全を考慮しての決断です。

この体験夏祭りが来年以降、より良いものになるように企画を練り上げてゆきますので、ぜひご参加いただきたいと思っております。



写経体験



流しそうめん体験